平成２４年度

石川県教育委員会指定「いしかわ学びの指針１２か条推進校指定事業」
珠洲市教育委員会指定「珠洲市『生きる力』をはぐくむ推進事業」

公開授業研究会

研 究 主 題

自分の考えを 筋道を立てて説明できる子の育成

～学び合いを生かした国語科の授業づくり～

地域ボランティア員による朝の読み聞かせ

2年生の音読発表会

平成２４年６月２９日（金）

珠洲市立飯田小学校

学び合いの中で……

「〇〇ページの□行目を見て下さい。～と書いてありますね。このことから、私は、～と思います。その理由は△△だからです。」
「私は、〇〇さんの意見に反対で、〇〇と考えます。なぜかというと、前の授業で□□は△△と言えたように、これも△△と言えるからです。」

と、根拠・理由・自分の考え（三角形で伝えよう）を示して、相手に筋道を立てて説明できる子の育成をめざして研究を進めています。そして、このことにより、学び合いが充実し、共に考え高め合う授業が学校中に展開されるよう努めています。

本日の公開授業研究会は、本校の授業研究の取組を中心に下記の資料等を準備させていただきました。

1　校内の研修体制に関すること
2　本校の学校研究に関すること（授業を中心に）
3　本日の授業に関すること（指導案）

何か参考になる取組があれば、幸いです。

【本日の日程】

12:50　13:15　14:00　14:20　15:00　15:10　16:40

受付	公開授業	移動	分科会	移動	全　体　会
	低学年① 高学年②		低学年部会① 高学年部会②		講演・演習 金沢大学人間社会研究学域 学校教育系准教授　　折川　司　氏

■公開授業（１３：１５～１４：００）　（控え室は全体会会場の１階プレイルームです。）

学年	教科等	単元名・題材名	授業者	場所
低学年①　１年	国語科	「おむすび　ころりん」	塚田真紀子　教諭	１階１年教室
高学年②　６年	国語科	伝統文化を楽しもう 「柿山伏について」	田保　衣子　教諭	３階６年教室

■分科会（１４：２０～１５：００）　〇低学年部会（１階１年教室）　〇高学年部会（３階６年教室）

■講演・演習（１５：１０～１６：４０）　　場所：１階プレイルーム
金沢大学人間社会研究学域 学校教育系准教授　　折川　司　氏

本校の研究の方針は？

1　研究でめざす子ども像は、子ども、保護者、教師のいずれにとっても目標とする姿が明確であり、共有できる内容とする。（達成目標の共有化）

2　「いしかわ学びの指針１２か条」を重点化し、今年度は、国語科を中心に研究を進める。

3　研究の検証を適切に行うとともに、子ども達の変容や身に付けたい力の成果が見える研究とする。

4　学校と児童や保護者との間に、強い信頼関係を築き、学習習慣や家庭学習の充実を図る。

5　学んだことの定着を図るための学習環境の整備を行う。

6　校内研修は、計画的、組織的、継続的、発展的、徹底的、実践的であり、専門家としての意識の高揚と実践力を高める。

本校の研究主題は？

1　教育目標と研究主題

心をあわせ，はつらつと，学びの道にいそしむ児童の育成

よく学び，生活に生かす子　／　おもいやりのある心豊かな子　／　健康で明るく，活力のある子

【 研究主題 】

自分の考えを 筋道を立てて説明できる子の育成
－学び合いを生かした国語科の授業づくり－

2　主題設定の理由

これまで教科指導を中心とした学力向上の研究に努め，成果をあげてきている。しかし，学力調査等の結果から，説明や方法を問う記述式の問題に依然として弱い傾向にあることも分かっている。また，誤答例を見ると，文章内容を読み取る力や，問われていることを的確に把握し，答える力にも課題がある。

そこで，教科の特質に応じた言語活動を指導者が明確にするとともに，「いしかわ学びの指針１２カ条」を踏まえながら，根拠や筋道を明確に表現する力や学び合ったことを実践的に生かす力を高める学習活動の充実を図り，他教科に生きて働く国語科を中心に自分の考えを説明する力を育成するために本研究主題を設定した。

3　めざす子ども像

①根拠をあげて説明できる子
②大事な言葉を落とさずに説明できる子
③他の人の考えと比べながら，自分の考えを説明できる子

４　仮説について

【仮説１】

場面や意図、条件に即し、記述の中の事実や意見をとらえ、さらに既習の学習や経験、例をあげながら自分の考えを述べる場面を多く取り入れれば、根拠をあげて説明できる児童が育つだろう。

【仮説２】

場面や意図、条件に即し、キーワードを見つける学習やキーワードを使って説明や報告、考えを述べるなどの場面を設定していけば、大事な言葉を落とさずに説明できる児童が育つだろう。

【仮説３】

多様な考えが出てくる学習活動を意図的に設定し、自分の考えの立場をはっきりさせたり、考えを変えた理由を説明したりする場を大切にしていけば、他の人の考えと比べながら、自分の考えを説明できる児童が育つだろう。

５　研究の視点

（１）国語科の授業づくりにおいて

①身に付けたい力の明確化と指導の系統性

ア　指導の系統性を踏まえて，指導事項の重点化を図る。　イ　子どもの実態を把握する。

②身に付けたい力に最適な言語活動の選定

ア　単元を貫く言語活動の種類や特徴を把握する。　イ　言語活動の具体的内容を指導のねらいに応じたものにする。

③単元を貫く言語活動の位置づけ

ア　言語活動を通して指導事項等の指導をする。　イ　課題解決の過程において主体的な思考や判断を促す言語活動を重視する。

④読書環境の工夫

ア　並行読書が行えるように，教材や作者など関連図書を教室に置く。

（２）筋道を立てて説明できるようにするために

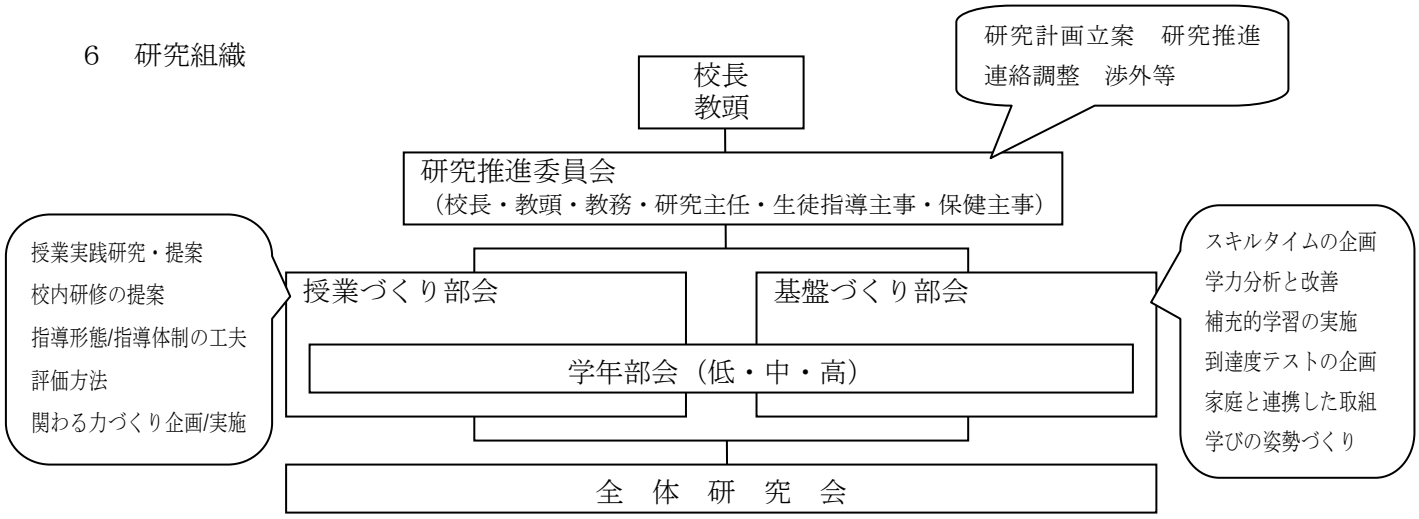
①考えの「根拠」の明確化

ア「根拠」の取り出し方の指導を繰り返し行う。　イ　相手意識・目的意識をもたせる工夫をする。　ウ「頭括型」「尾括型」を場面に応じて使えるようにする。

②論理的思考力の育成

ア　比較分類する力をつける。　イ　話しの組み立てを工夫して話す力をつける。

③語彙力の育成

ア　用いてほしい言葉づかいや用語を提示する。　イ　辞書を活用し語彙や知識を増やす。

６　研究組織